休眠が深い種子をしっかり起して揃いのよい苗を！

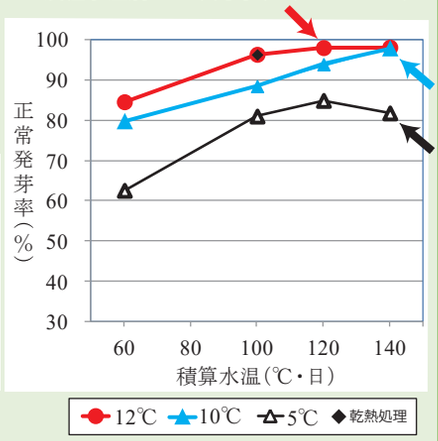
～種子の発芽を揃えるポイントについて～

【監修】広島県立総合技術研究所農業技術センター

近年、夏季が高温の年が続きますが、登熟期に高温で推移すると品種によっては、種子の休眠が深まり、翌年作の催芽時に発芽が揃わないことがあります。

夏場が暑かった翌年の作付けについては、以下４点のポイントをおさえて優良苗を生産ください。

浸種水温別の正常発芽率（コシヒカリ）



出典：新潟県農業総合研究所作物研究センター
平成 28 年度主要研究成果「休眠の深い水稲種子に適した浸種方法　育種科原種生産管理」

● 浸種の水温は 10℃以上！

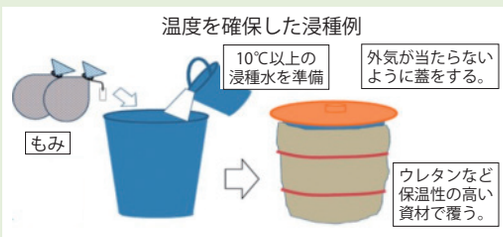
積算水温は 100℃（10℃ 10 日間）を目安に、十分に浸種してください。

浸種時の水温が 10℃未満であると再休眠に入り、発芽の揃いが悪くなります。

（浸種開始時に温度が高いとその後下がっても再休眠に入りにくくなります）

また、低温で長い期間浸種を行なうと種子に負担がかかり、発芽が悪くなります。

温度を確保した浸種例



● 浸種の際の水は多めに！入れ替えもこまめに！

種子の発芽抑制物質を薄めるため浸種の際は、大きめの容器に多めに水をいれてください。

薬効安定のため種子消毒剤を使用した場合は２～３日はそのままで、その後の水の入替えはゆっくりと。

浸種の程度

● 浸種はハト胸状態（出芽１～２㎜）！

発芽の揃いが悪いようであれば、28℃～ 30℃で催芽処理を行なってください。

● 可能な限りの遅まきと育苗機での育苗期間を長めに！

時間がたつほど休眠は徐々にとかれていくため、発芽が揃いやすくなります。また気温も上がってくるため、環境要因も整ってくることから可能な限りの遅まきをおすすめします。

また、作付けの関係上、これが難しいようであれば育苗機に入れておく時間を長めにしてください。

【その他のポイント】

● 塩水選時、種子が浮きすぎる場合は１割程度浮くように調整！

高温年の種子は平年に比べて比重が軽くなる傾向があります。（発芽や品質には問題ありません）

この場合には塩濃度を１割程度浮くように調整してください。

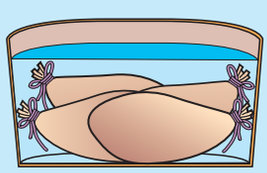
種子消毒～播種までの手順

〈JA購入無消毒種子〉

消毒済種子（ひとめぼれ・コシヒカリ）は③浸種作業から行う。

❶消　毒

テクリードCフロアブル200倍とスミチオン乳剤1,000倍の混用液で24時間浸漬

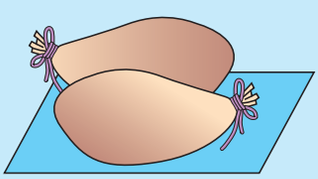


注　意

袋いっぱいに詰めると薬液が内部まで浸透しないので7分目くらいにする。

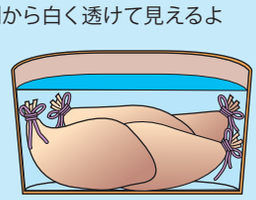
❷陰干し

籾の表面が白くなるまで約1日陰干しする。



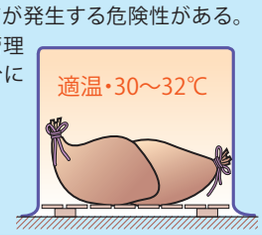
❸浸　種

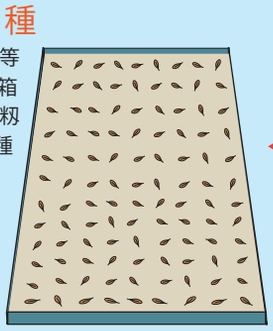
水温は10～15℃が適温です。消毒効果の低下を防ぐため2日間は水替えしない。その後、1日1回水を替える。籾殻の胚が外側から白く透けて見えるようになったら浸種完了の目安です。（5～10日位）



❹催　芽

催芽の適温は30～32℃で20～24時間要する。35℃以上になると馬鹿苗が発生する危険性がある。温度管理は十分に行う。



❺播　種

播種は均等に行う。1箱あたり乾燥籾180g・浸種もみ230g